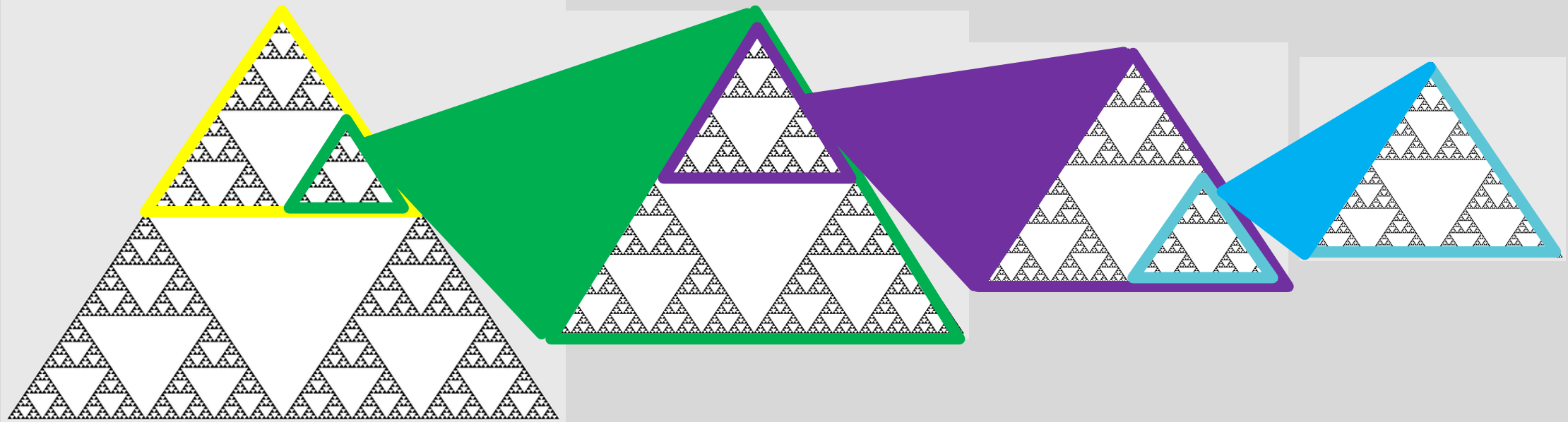




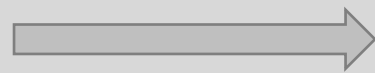
青牛式 マルチタイムフレーム分析

MTF分析の概念を捉える

マルチタイムフレームの構造

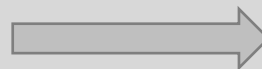


大が小を支配し小は大に帰属する



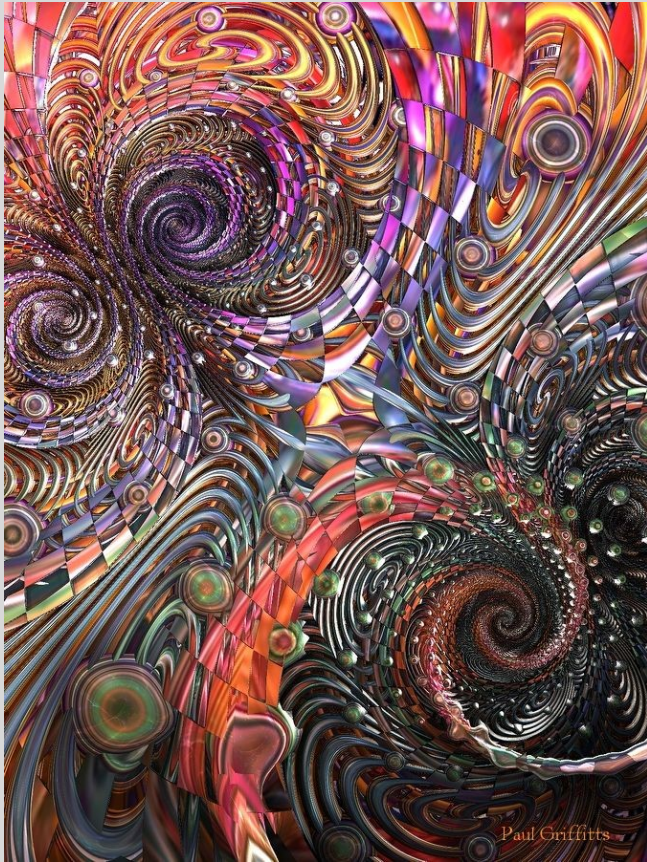
大きい時間足が小さい時間足を支配し、
小さい時間足は大きい時間足の流れに依存している

また、小が大を構成している



大きい時間足の値動きは、小さい時間足の値動きが派生したものである

マルチフラクタル = 自己相似性

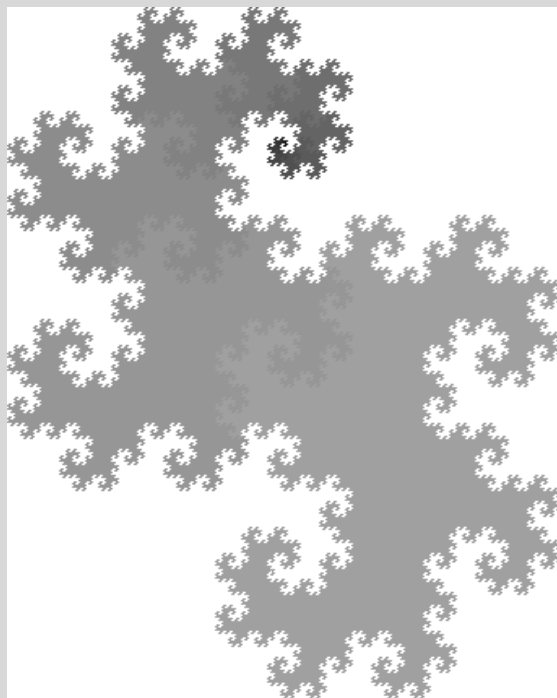
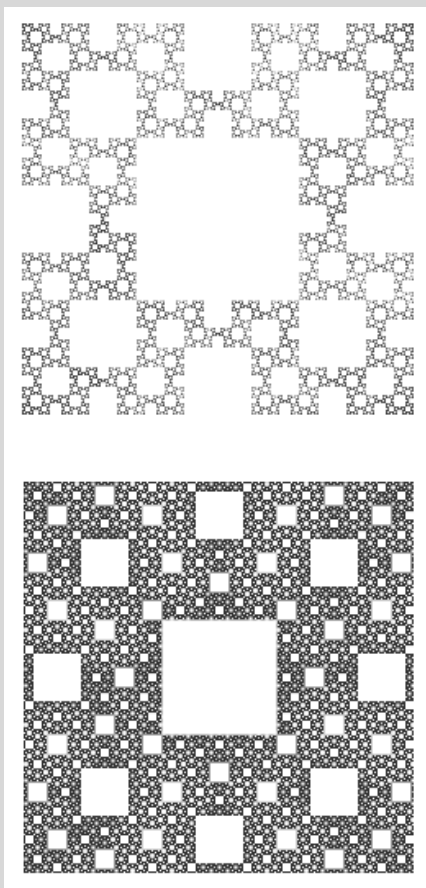


同じような動きがあらゆるスケールで起こっている



同じような値動きがあらゆる時間軸とサイズ感で起こる

自己相似性の構造



ミクロ単位まで拡大すると個々の構造は単純

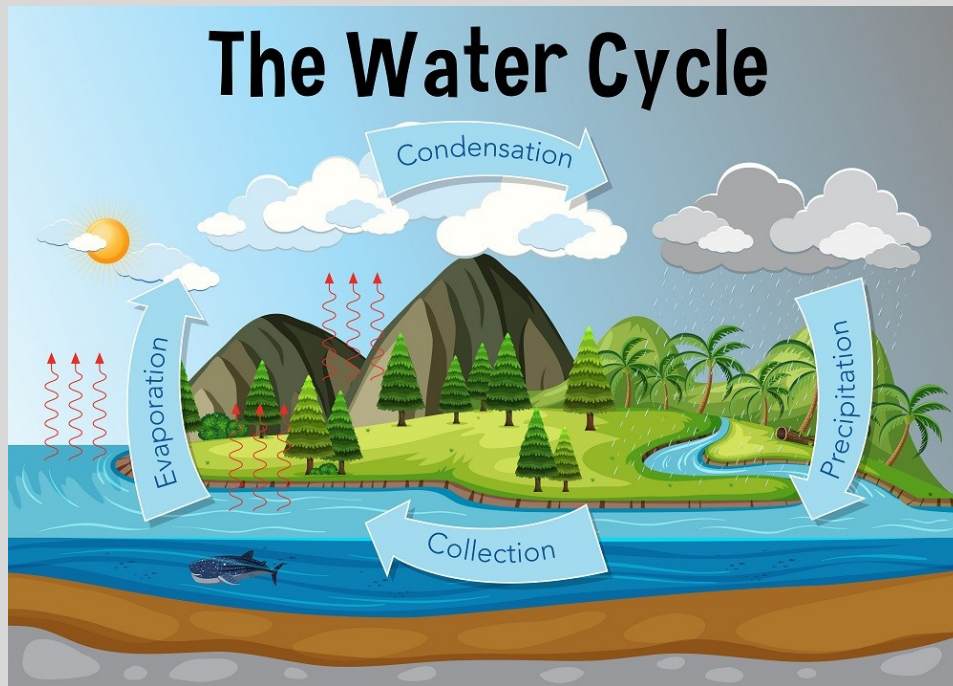


単純なものの組み合わせは、無限の複雑さを構成できる



4つの価格で形成する1本のローソク足で形成する波形やMTFの構造は、無限の組み合わせを構成している

規模を変えた構造の連続性



小さい流れはやがて大きい流れとなり、
また小さい流れとなって生まれ変わる



小さい時間足の値動きが大きい時間足へと派生し、
その大きな値動きもまた小さい時間足から派生する
値動きによって終息していく。

マルチタイムフレーム分析とは

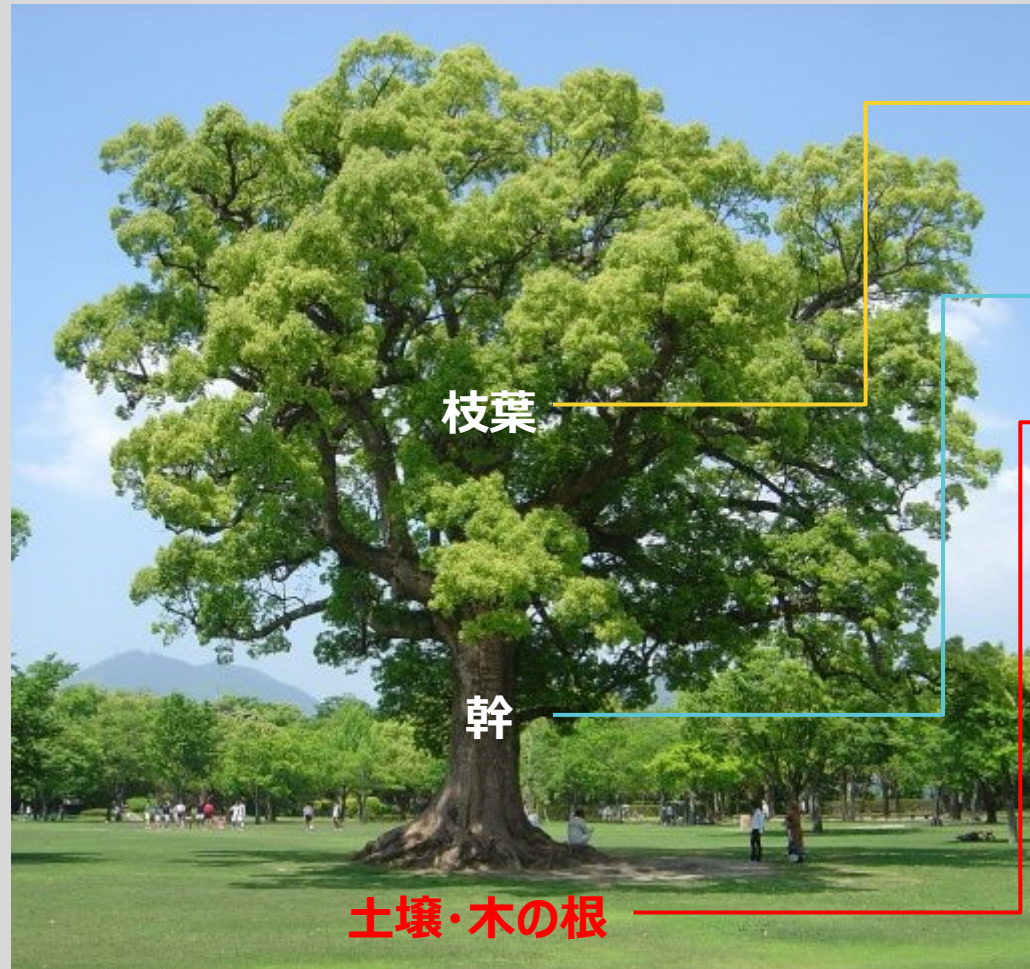


すべての生命が姿かたちを変えて循環を繰り返すように、チャートで起こる現象も同様にあらゆるスケールで循環を繰り返している



常に複合的に絡み合うあらゆる時間軸で起こっている事象を分析統合し、
全体を全体のまま捉える統合的な洞察力
によって暫定的最適解を導き出す術である

実践におけるマルチタイムフレーム分析の位置づけ



テクニカル
変化する相場への適合
細かな調整

一貫した手法

マルチタイムフレーム分析

豊かな土壌にしっかりと根を張ることで、
安定した幹が育ち、枝葉が広がりを見せる

→ マルチタイムフレーム分析は、
テクニカル分析すべての土台

※この概念の説明では、メンタル等は除外しています。

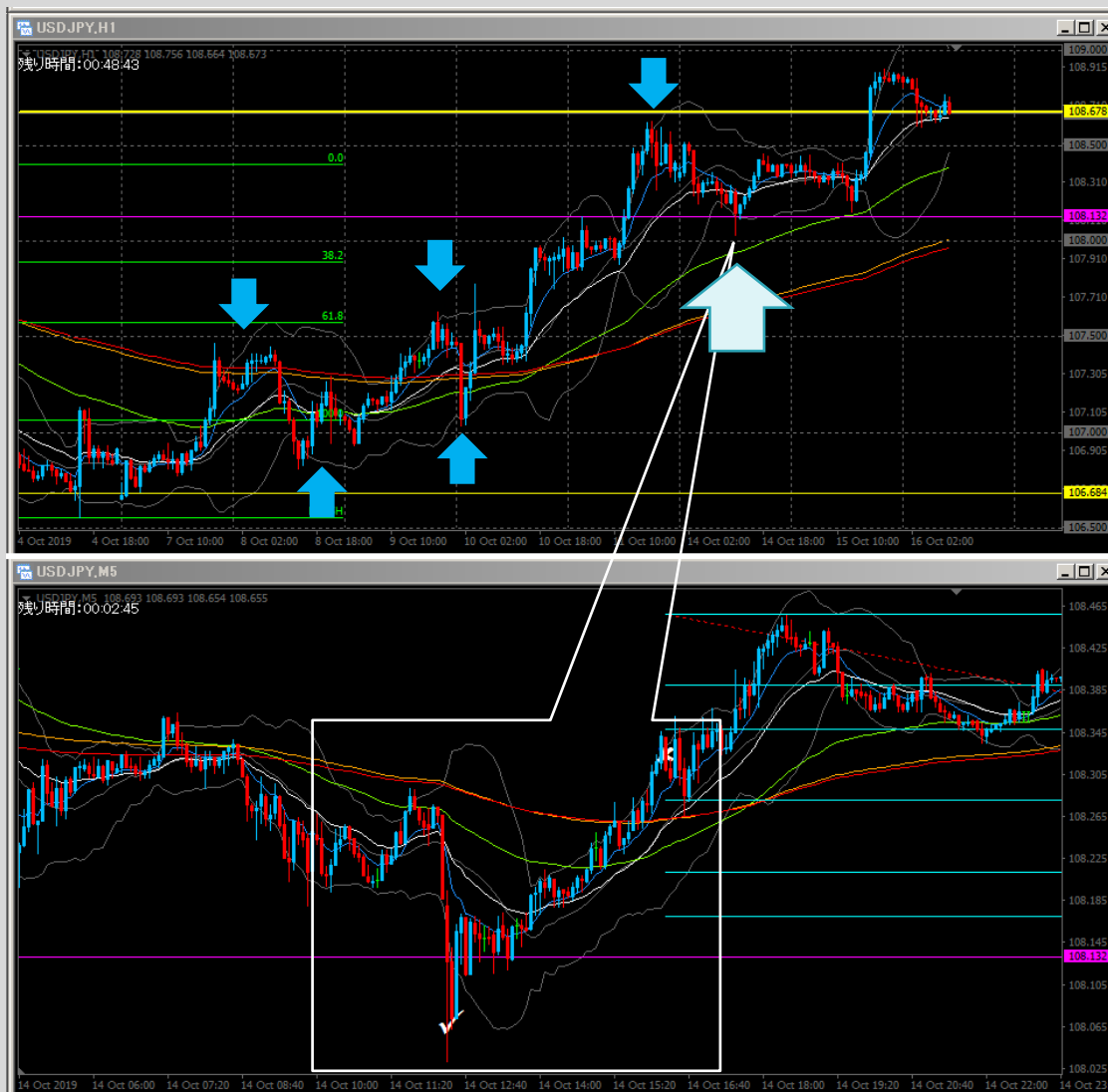
マルチタイムフレーム分析の思考テクニック



マルチタイムフレーム分析の思考テクニック



実例 演繹的推論



環境はUTRD

↓
相場参加者は押し目買いを狙っている

↓
短期足での安値割れには優位性がある

↓
直近高値に設定したSPLでのロールリ
バーサル場面での急落でLong

買い戦略

上昇トレンド

ダウ理論

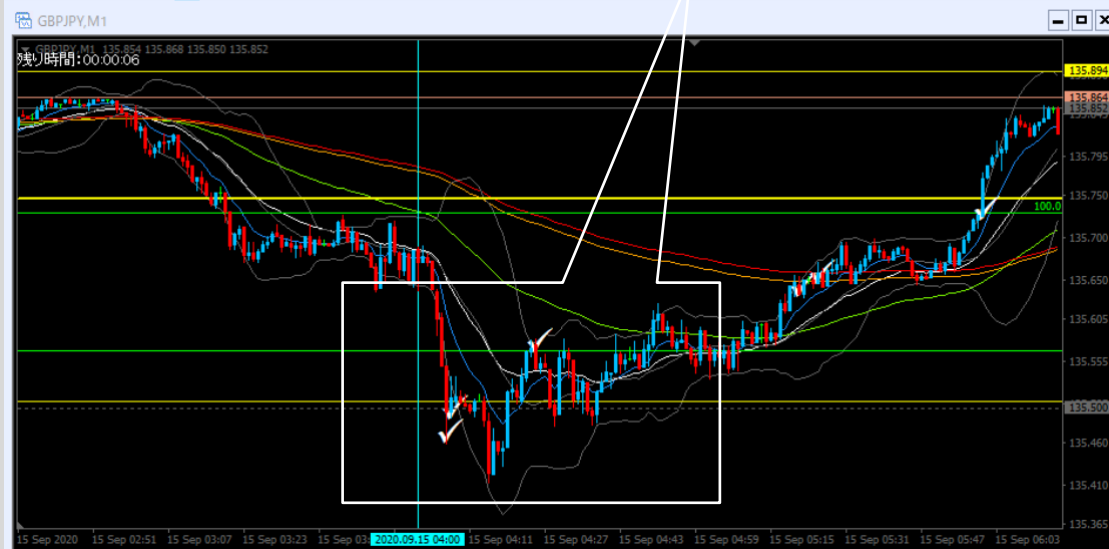
演繹的推論

deductive inference

【環境条件によって、必然的に導き出される優位性を捉える】

ダウ理論は、相場参加者の最も基本的な共通認識

実例 帰納的推論



環境はレンジ基調

↓
顕著なSPLあり

↓
急落が起これば優位性が高い
※ジリ下げは×

↓
ETRポイントは、他の時間足で下ヒゲと
なったため、その後強気でピラミッティング

買い戦略

買い支え &
ストップ刈り

下
ヒ
ゲ

S
P
L

急
落

帰納的推論

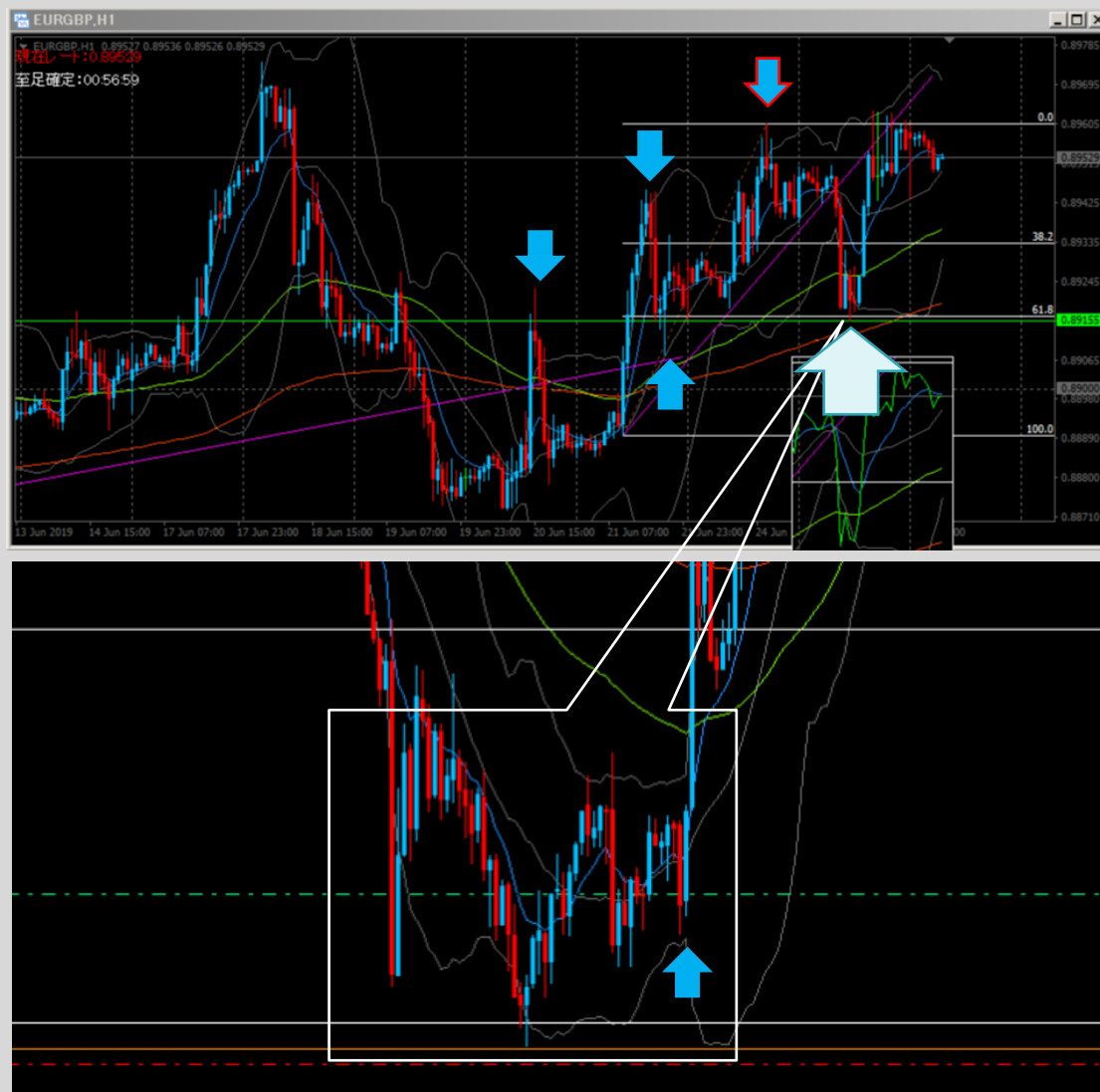
inductive inference

【一定の条件が揃えば優位性の高い戦略となる】

SPLへの急落 = ストップ刈り

その後、下ヒゲ = 一定の値幅は巡行する確度が高い
→ 積極的にピラミッティング

実例 仮說的推論



高値更新したという事実

↓
相場参加者は押し目買いを狙っている

↓
前回安値を終値ベースで下ヒゲをつけて
切り上げた

↓
上位足での安値切上げ確定を確認した
ため、下位足で待機

↓
M1でも安値を切上げたためLong

買い戦略

Higher-Low確定

下
ヒ
ゲ

終値での
切上げ

仮說的推論

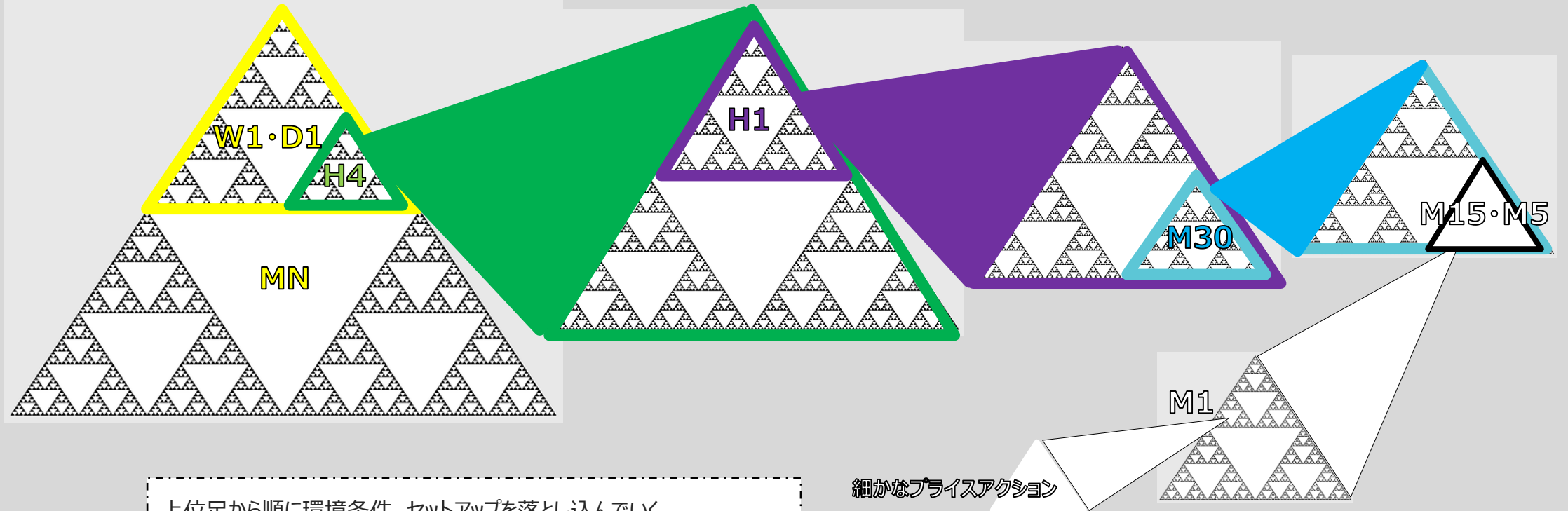
abduction

【具体的に起こった事実によって、次に起こる可能性が高い事実
を見極めながら戦略を立てる】

高値更新した = 押し目買い

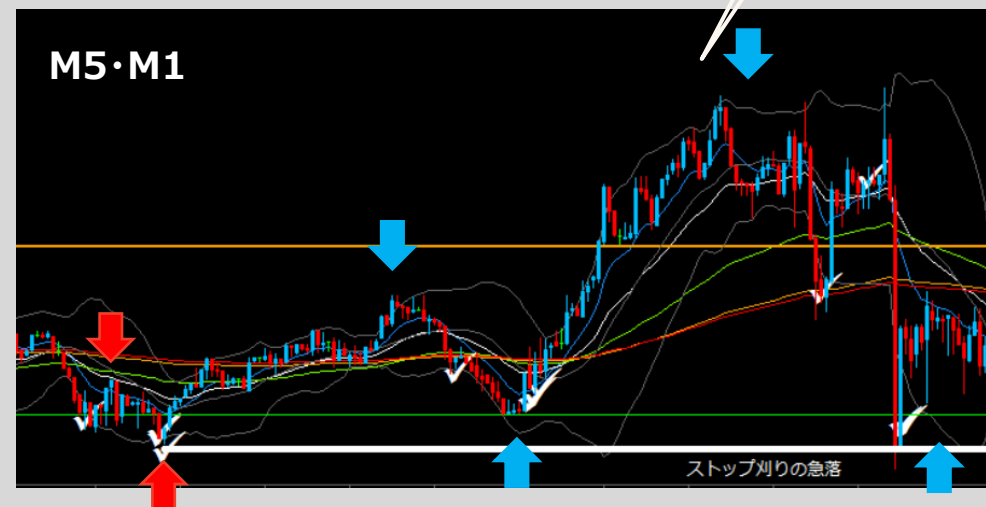
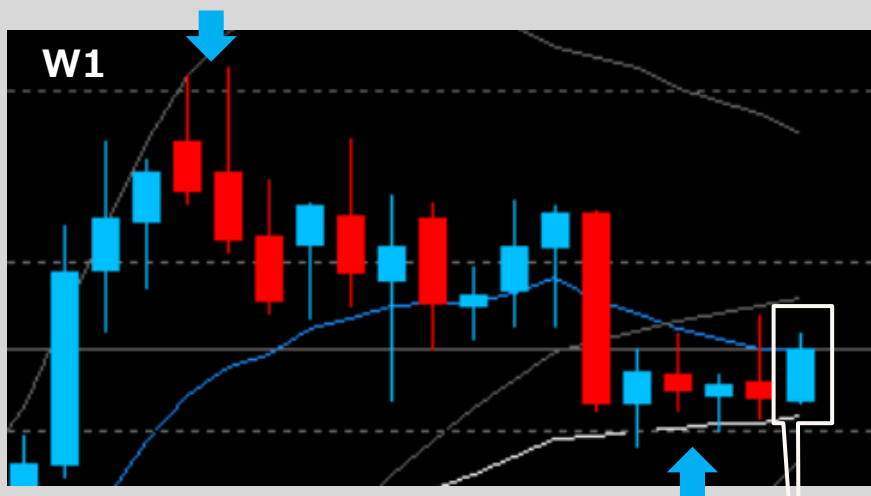
安値更新した = 戻り売り

時間軸の移動と落とし込み

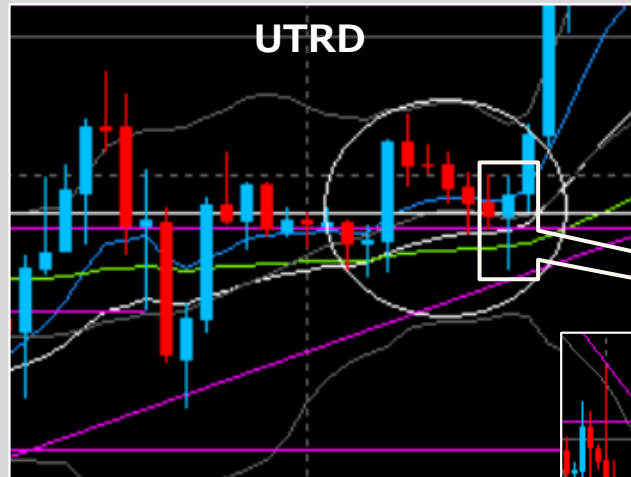


上位足から順に環境条件、セットアップを落とし込んでいく
→ その過程で現在起こっている事実（根拠）を確認する
※ 買いたいから買う条件を集めるという意味ではない
→ 事実を統合し、その後に起こりうる値動きを探る
∴ 結果として導き出した最適解に対して、根拠となる事実が揃っており、なおかつ強度が高い根拠であれば、確度の高いセットアップとしてロット算出等のエントリー戦略を練る

強度が高いセットアップの実例



セットアップの強度と環境条件



上位足

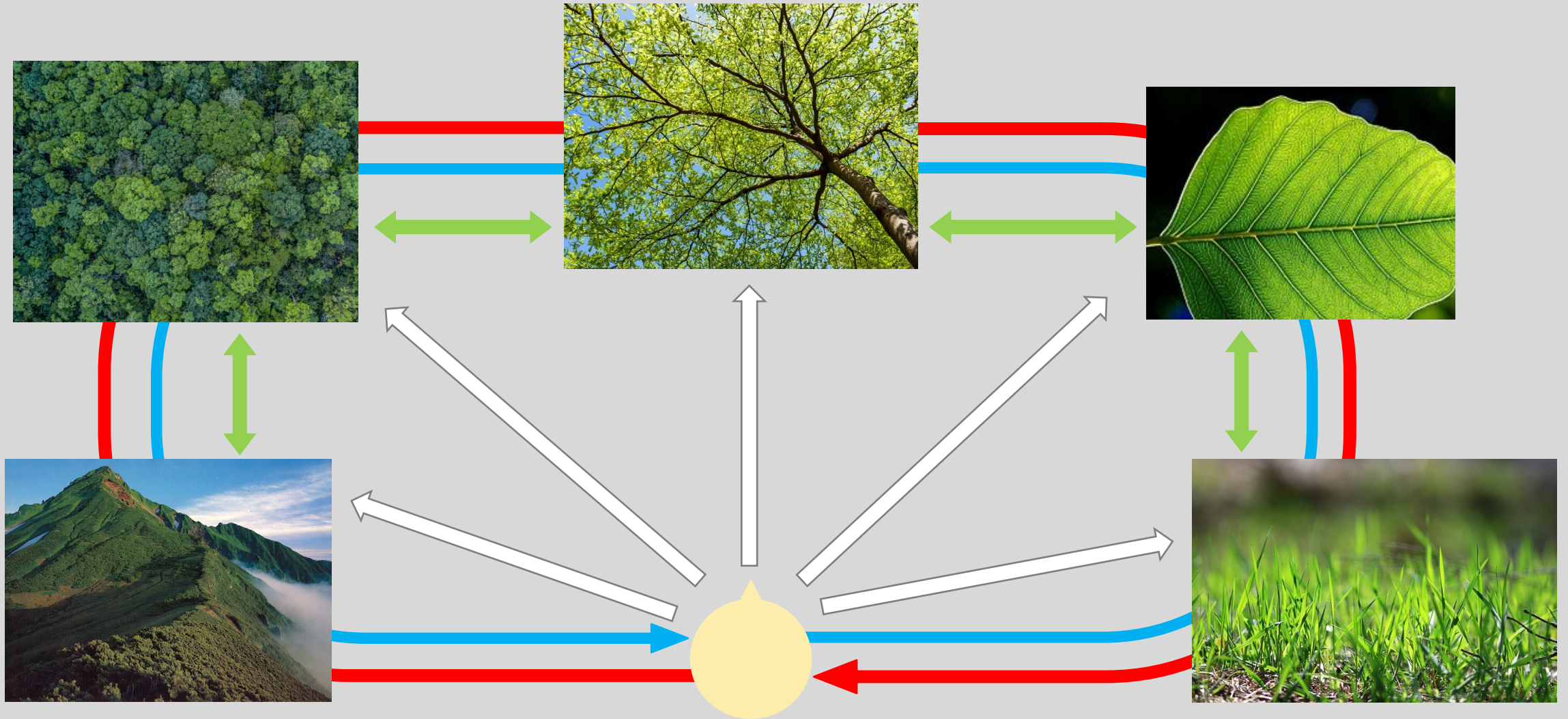


下位足



この場合、下位足でトレンド転換が起こっている環境条件はどうなっているのか、でセットアップとしての強度が変わってくる。

全体を全体として捉える



美しき調和

「バランス = balance」がラテン語の bilanx、つまり、bi(2つの)-lanx(皿)(=天秤) からきた「単純なつり合い(まんべんなく力が分散している状態)」を表す語であるのに対して、「調和 = harmony」は古代ギリシャ語の harmonia(ハルモニア)に由来しています。

そして、ハルモニアはギリシャ神話に出てくる調和の女神の名前です。

注目すべきことに、彼女は「愛」の女神アプロディテと「闘争」の神アレスという極端に相反する性質の両親を持っています。

つまり、極端に相反する2つの存在を互いに否定し合うのではなく、踏まえて乗り越え、1次元高い存在に統合した産物がまさにハルモニア(調和)なのです。

要するに、**2つのものを単純に足して2で割ったような概念が「バランス」で、
両極端な2つの概念を否定するのではなく踏まえて乗り越え、1次元高い概念に昇華することで統合してできるのが「調和」**だということです。

そして、統合する両極端の振れ幅が大きければ大きいほど質の高い調和が誕生することになります。

私たちが相場の世界で体現しようとしていることは、まさにこの調和です。

一見、上位足と下位足では完全に真逆に見えてしまうシチュエーションを、絶妙なコントラストで覗き込むことで美しき調和を図ろうとしているのです。

見出した調和すら時間とともに儚くも優位性を失い、新たな秩序を生み出すことを繰り返す相場の世界におけるその立ち振る舞いは、万物の誕生・消滅と重なるものがあり、だからこそ、そこに向き合う私達も常に学び続け、進化し変化する必要があるのです。